

ま き ば

「赦しの中に」

牧師 竹井 剛

その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。

(マタイによる福音書18章27節)

つくづく人間関係の難しさを思われる時があります。そのような場面では赦すということが大切です。赦しについて聖書はどのように語っているのでしょうか。

イエス様の弟子ペトロがイエス様にどれだけ人を赦せばよいのかと尋ねました。ペトロには赦せない誰かがいたのでしょうか。ペトロはいつもイエス様のそばにいて教えを聞いていました。自分を裏切る者や傷つける者、苦しめる者、敵対する者、その者を赦しなさいと。そこでペトロは赦せない相手を7回まで赦せばいいのでしょうか、と尋ねました。私たちも人を赦そうと思うとき、赦すことは容易でないことを経験しています。ですからペトロも7回までですかと言えば、イエス様は「さすが私の弟子だ」と誉めてくれると思ったかもしれません。しかしイエス様は、「いやいや7回どころか7の70倍までも赦しなさい。」と言われました。聖書では7は完全数を現わしています。完全の上に更に完全に赦しなさいという意味です。それによって、イエス様は回数ではなく、人が自分に対して過ちや罪を犯したときには、限りなくどこまでも人を赦しなさいとおっしゃったのです。

そしてイエス様は一つのたとえ話をなさいました。「仲間を赦さない家来」のたとえです。イエス様は神が御心とする、「人を赦す」とはどのようなことなのか、このたとえでお示しになりました。ある王様から家来が莫大な借金をしていました。それは何千億円という額でした。この額は一生かけてどんなに頑張ったとしても返済することは不可能なものでした。家来は王に対してそれほどの借金を負っていたのです。ある日彼は王から借金の返済を求められました。しかし借金をすべて返済することなど当然できるわけありません。そこで王は無慈悲と思えるような命令を下しました。家来に家族や全財

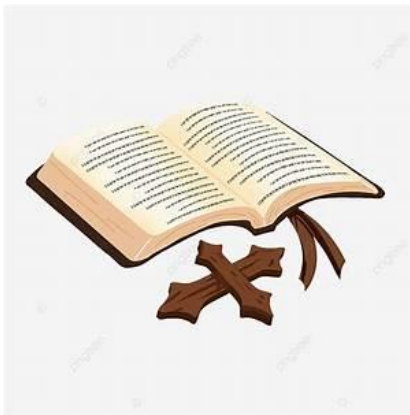
産を売り払って返済するように。すると家来は王の前にひれ伏して「どうか待ってください。きっと全部お返しします」と必死に願ったのでした。私たちもこの家来と同じ立場にあったら、同様に債権者である王にひれ伏して「それだけはやめてくれ。何とか返済するから待ってくれ」と嘆願するにちがいません。するとどうでしょうか。厳しく命令をした王が一転して心を変えるのです。王はその家来を憐れに思い、彼を赦されたのです。そして王はその莫大な借金の返済を延期するどころか、なんと全額帳消しにしてあげました。この人は一生かかっても決して返すことのできない借金をもう返さなくてもよいと一気に許されたのです。借金を棒引きされた家来の解放感と喜びの大きさはどれほどのものだったのでしょうか。家来は喜び踊る思いで王のもとを去っていきました。ところが家への帰り道でしょうか。家来が喜びに浸って歩いていると仲間と出会います。その仲間は自分に何十万円、あるいは何百万円という額の借金をしていた人でした。家来は自分も借金を赦されたのだからこの仲間の借金を赦してあげようとは思わずに、その仲間を捕まえて首を絞め、「借金を返せ」と迫りました。その人は「どうか待ってくれ。返すから」としきりに頼みました。しかし彼は赦さず、牢に放り込んでしまいました。それを見た仲間の者たちが王にそのことを知らせると、王は彼を呼んで、「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」と言って、借金の棒引きをとりやめにし、彼を牢に入れてしまいました。

いかがでしょうか。この話を聞いて、この家来は本当にひどいと思いませんか。返済不可能な膨大な額を棒引きにされて、しかしその額から比べたら僅かにすぎない小額の借金をしていた仲間を勘弁しませんでした。とんでもない人だと私たちは憤るかもしれませんが、聖書は、この家来とは実はあなたのことを指しているのですよと私たちに伝えてあります。ひどい家来だと思っているこの人物はまさにあなたなのですよと言っているのです。このたとえ話の中の王とは誰のことでしょうか。それは神様です。では借金とは何を表しているのでしょうか。それは自分

の力では一生かけても決して返すことのできない、償うことのできない負債、罪のことです。

つまり私たちは日々いろいろな形で神様に対して罪を重ね、膨れ上がっています。実に大きなものです。私たちは、どんなに頑張っても返すことのできない莫大な罪という借金を神にしているのです。そして神様はこの罪を大きな痛手をもって帳消しにしてくださいました。それが独り子イエス様を十字架にかけたことです。神様に対して膨れ上がった莫大な借金となった罪をイエス様の十字架によって一切赦されたという恵みを心から知る時に、わたしたちは神に赦されている恩寵に対する感謝と喜びに生きることができます。イエス様は、人を赦すということについて、わたしたちが思う赦しとは全く違う世界を開き示して下さいました。先ず神様が私たちを赦して下さいました世界です。

神様が、独り子イエス・キリストの命という莫大な犠牲を払って私たちを赦して下さいました。この赦しの中で、私たちは、人を赦すことができます。赦されて生きている者だから、赦す。イエス様の十字架はそのような新しい赦しの世界へと導いてくれるのです。



【教会員の声】

木村 寛子

このたび受洗するにあたり、「証」を書くように言われ、「自分が歩いてきた道」を書いてみようと思います。祖父母、父母のクリスチャン家庭に生まれ、小さい頃から「神様はいらっしゃる」という事が当たり前と思い育ちました。二歳半の時、高熱を出し、主治医、他色々な病院へ電話しましたがおらず、最後のお医者さんに往診して、注射を打ってもらいました。その注射は「ストマイ」といい、二度打ちました。「お耳、お耳」と言ったそうですが、難聴になり私の人生を左右したと思います。

無牧の時、いろいろな牧師先生がいらして、家で泊まり、礼拝を守って下さいました。小さい時から神様は「空気」のような存在でした。でも、高校時代に苛めに合い「噂されている」と言ったら、父に「耳が悪いせいだから耳鼻科に行くように」と言われ、そのお薬を飲んだら、神経がおかしくなり、病院に行き、「そのお薬をやめるように」と言われました。

登校拒否になり、苦しい思いをしながら学校に行き卒業致しました。大学に行きたいと思い、家で勉強していたある日、腹痛がおこり、内科から外科、外科から婦人科へ行くように言われ、検査の結果、卵巣腫瘍が見つかり、手術し、左の卵巣を摘出しました。母は「私が代わってあげたい」と嘆きましたが、右にある小さな腫瘍は漢方治療のテルミーをかけて今日に至っております。嫌いだった野菜が食べられるようになりました。

帯広を離れることができず、一浪して大谷短大文学部に入學し、お友達もでき、楽しい青春時代を過ごしました。その時代のお友達と吉岡ミツヅエ先生の家で聖書研究に夜通うようになりましたが、長くは続きませんでした。その後は家庭での祈り会に出たり、ボランティアをしたり、アルバイトをしたり、お料理を習いに行ったりしておりました。あと、教会の礼拝(クリスマス礼拝、お食事会)などにも出席しましたが、その後の礼拝に出席しなくなりました。

弟が北一条教会で受洗し、その時の久野牧先生のお説教のテープを送ってくれて聞いておりました。その後、後藤憲正先生になり、家を訪ねてくださって楽しくお話を聞いたり、父の記念会に食事を共にしたりして楽しくお話する機会がありました。先生に「洗礼を受けたい」とお話ししましたが礼拝にも出席せず、「今はその時でない」とお手紙を書いてお別れしました。

主治医が変わり、人前に出るのがいやでなく

なりました。竹井剛先生がいらしてから礼拝に出席するようになり、母から「神様がとらえてくださったのね」と言われ嬉しく思いました。昨年9月に竹井先生から洗礼を受けるように言われ、びっくりし、「こんな私でいいの?」と思いました。でも礼拝に通ううちに「神様に従おう」と思うようになりました。欠けの多い私ですが竹井先生ご夫妻や教会員の皆様に支えられて、神様が共にいてくださることを信じ、これから教会生活を歩いて行きたいと思っております。

そして今日その「時」を迎えることができたのは多くの方々のお祈りとお導きがあったからと感謝致します。ありがとうございました。



【教会行事】

- | | | |
|----------|---------------------|------------------------|
| 1月11日(木) | : 更別集会 | |
| 1月15日(月) | : 研修会、修養会委員会(オンライン) | 池田明美長老 |
| 1月28日(日) | : 2024年総会 | |
| 1月30日(火) | : 伝道局理事会(オンライン) | 鴫田咲子長老 |
| 2月8日(木) | : 更別集会 | |
| 2月20日(火) | : 中会常置委員会・伝道局合同会議 | 鴫田咲子長老 |
| 2月20日(火) | : 十勝管内キリスト教連合会 | 竹井剛牧師 |
| 3月4日(月) | : 研修会、修養会委員会(オンライン) | 池田明美長老 |
| 3月7日(木) | : 更別集会 | |
| 3月12日(火) | : 十勝管内キリスト教連合会 | 竹井剛牧師 |
| 3月19日(日) | : 第73回定期中会 | 竹井剛牧師・鴫田咲子長老
高林喜雄長老 |
| 3月31日(日) | : イースター礼拝 | 木村寛子姉受洗 |
| 4月4日(木) | : 更別集会 | |
| 4月23日(火) | : 伝道局理事会(オンライン) | 鴫田咲子長老 |
| 4月23日(火) | : 十勝管内キリスト教連合会 | 竹井剛牧師 |
| 4月29日(月) | : 臨時中会 | 竹井剛牧師・高林喜雄長老 |
| 5月3日(金) | : 木村浩司・美奈さん結婚式 | |
| 5月6日(月) | : 釧路教会伝道師就職式 | |
| 5月9日(木) | : お茶会 | |
| 5月13日(月) | : 研修会、修養会委員会(オンライン) | 池田明美長老 |
| 5月20日(月) | : 道東地区教職会 | 竹井剛牧師 |
| 5月16日(木) | : 更別集会 | |
| 5月21日(火) | : 十勝管内キリスト教連合会 | 竹井剛牧師 |
| 5月31日(金) | : 伝道局理事会(オンライン) | 鴫田咲子長老 |
| 6月6日(木) | : 更別集会 | |
| 6月11日(火) | : 十勝管内キリスト教連合会 | 竹井剛牧師 |
| 6月28日(金) | : 伝道局理事会(オンライン) | 鴫田咲子長老 |

コラム：お茶会に参加して

5月9日に教会にて「お茶会」が開催されました。教会員の方々、会員の知人、十勝管内の教会関係の方々、近隣の方々などが集まり、賑やかかつ厳肅なひとときを皆さんと一緒に過ごしました。

玄関から入室して、まず驚いたのが、西洋風の教会が和風の雰囲気の様変わりしていたことでした。一挙に変貌した雰囲気の中で、皆さんと語り、お茶をいただく幸福感。

お茶をたてること、お団子の提供、茶室に仕立てること、雰囲気づくりなどすべての面で企画いただいた須藤静子姉と高橋泰子姉に深く感謝いたします。お二人の着物、和装の着こなしにも、師範としてお稽古に励まれた熟練を感じました。また折々でお二人を支える奉仕を教会の方々が懸命にされていました。感謝いたします。

お茶会に参加して感じたことは、お茶を味わうことも本筋ですが、静寂な雰囲気、香り、親しい皆さんと一堂に会す機会など、お茶会を構成するすべてのことを共有できる喜びも醍醐味なのかなと思った次第です。

また、私としては久しぶりに池田明美長老のご母堂様にお会いできたことがとても嬉しかったです。ご母堂様と話して元気が与えられました。感謝です。

(畠山尚史)



🍵 お茶をたてているのは当教会員です



😊 御三人の笑顔がいいですね



😊 教会が茶室になりました



発行元：日本キリスト教会帯広教会
発行日：2024年6月30日
発行：「まきば」編集委員
発行責任者：竹井 剛